

口癖から感じること

人は誰でも勉強ができたり、スポーツができたり、音楽や絵画が得意だったり、仕事ができるとよいと考えている人が大半だと思います。それは他人からの尊敬や憧れの対象になるからだと思います。

社会人になると仕事上では、注意した方がよい口癖があります。その口癖を知らず知らずに発してしまうと、仕事ができないと思われてしまいます。無意識に発している口癖が、他人から見ると仕事ができないことを示してしまうのです。ですから筆者は以下の口癖を極力避けるようにしています。

1. 「でも」

「でも」は物事を否定したり、反論したり、言い訳などの時に使われます。

「でも」を使うときは、相手から注意や助言、指導を受けたときに使われます。非常にネガティブな感じを周囲に与えてしまい、自分だけでなく周囲の雰囲気をも悪くしています。

2. 「だって」

「だって」は「でも」と同様に否定や言い訳のときに使われます。しかし「でも」と異なり、反論ほどの主張はなく、責任を他に転嫁する時に使われます。例えば、テスト当日に遅刻した場合、「明日テストだと思い、遅くまでテスト勉強していたから遅刻しました。」と、自らの責任がないような発言に感じられるのです。

3. 「したのに」

「したのに」は失敗したり、できなかつたりしたことに対して弁解や言い訳の時に使われます。一応、自分なりには努力したのに結果をだすことができなかった時に発せられるのです。しかし社会人にとっての評価は、第三者が定めることで自分自身の自己評価ではありません。

4. 「どうせ」

「どうせ」は自らの消極的な気持ちを表しています。また、自分自身の能力ややる気を低くみせ、失敗しても納得しやすいようにします。その結果、周囲からは消極的な人物だと見られてしまいます。

5. 「忙しい」「時間がない」

「忙しい」とか「時間がない」と言うのは、計画性や業務遂行能力が高くないことを意味します。仕事では皆同じに業務量が振り分けられてはいません。きっと仕事のできる人は「忙しい」「時間がない」と、簡単には発しないと

います。仕事のできる人は、仕事に対するスピード感があり、自分のスケジュール管理ができ、仕事の優先順位をつけられる人だと思います。ホンダの創業者本田宗一郎氏は「時間だけは神様が平等に与えて下さった。これをいかに有効に使うかはその人の才覚であって、うまく利用した人がこの世の中の成功者なのだ。」と言っています。1日24時間は、皆さんに平等にあります。いかに時間をつくるかが大切なのです。

6. 「後でね」

「後でね」は、やらなくてはいけないことを先延ばしにするとき使われます。しかし、尋ねた人は、きっと今やって欲しいから言っているのだと思います。自分にとっていまやらなくてはいけないことは何かを見直しましょう。

7. 「疲れる」

何事に対しても直ぐに「疲れる」を発する人は、やる気がないように感じられます。もし、体力がなかったり、病気だったりする場合は、体力増強や健康回復のために、食事やリハビリ、治療などの行為が必要になってきます。周囲の人は、「疲れる」を多発する人に仕事を任せません。結局のところ自らの飛躍のチャンスを失ってしまいます。

8. 「お金がない」「人がいない」

「お金がない」とか「人がいない」というのは事実かもしれませんが、しかし、仕事を与えた上司は、貴方に出来ると思って任せたのです。そのことを考えると、経済的理由や人的理由でできないのではないと思います。限られたお金や人的範囲のなかでできる方法を探ることが必要だと思います。足りないのはお金や人ではなく、自らの能力を疑わなくてはいけないと思います。

9. 「もう少し(～)したら」

「もう少し」に続く(～)の部分に入る言葉として考えられるのは、「経験」「勉強」「技術習得」などだと思います。これは現段階では、自分に遂行する力がないことを示しています。それなら何時になったら行動するのでしょうか。多くの場合は、手遅れになったり、時間切れになったりしてしまいます。経験不足や準備不足かもしれませんが、試行錯誤しながら成長するのです。

10. 「いまさら」

「いまさら」は、現在では無理ですよという言い訳に使われます。例として「いまさらやっても手遅れですよ」などがあげられます。時間的な所為にして行動しない言い訳をしていると思います。過去の時間を問題にしているのではなく、現在の課題にどう対応するかが問われているのだと思います。

今回は仕事上で注意した方がよい口癖を記しましたが、皆さんの生活でも繋がる部分が多いと思います。このような口癖を注意してみてください。それだけでも成長の度合いが違ってくると思います。